

学術フォーラム

研究倫理教育プログラム  
「総論」



日本学術会議副会長・慶應義塾大学法学部教授

小林良彰

2014年7月29日

日本学術会議講堂

# 「責任ある研究活動」に関わる問題

- ・研究費の不正使用

- ・論文捏造・偽造・盗用

- ・科学研究の利用の両義性

本人の意図に反した目的に悪用される可能性

- ・オーサーシップ: ギフト、ゲスト、ゴースト

著者: 「発表された研究の内容に責任を持ち、

研究において十分な貢献を果たした人々」

国際医学雑誌編集者委員会(1985)

- ・東電福島原発事故以降、科学に対する信頼変化

# I. はじめに—何故、研究倫理なのか？—

科学は**信頼を基盤として成立**

- ・信頼が失われれば、科学が依って立つ基盤が崩れる

日本学術会議

- ・声明「科学者の行動規範—改訂版—」平成25年1月

研究倫理教育プログラムにより科学者が自律的に規範を遵守することで、**科学に対する信頼を確立**するとともに、他者からの過剰な干渉を受けることなく**科学の独立性を保つ**

## Ⅱ. 社会における研究行為の責務

### (1) 科学と社会

研究倫理を実践する具体的な方法は研究分野によって異なる部分も多くあるが、研究を倫理的に行っていく上ですべての科学者が**共通して持つべき価値観**がある

こうした認識の下に、科学者個人の自律性に依拠する倫理として、**科学者の責務、公正な研究、法令の遵守**などがある

## (2) 科学者の責務

専門知識、技術、経験を活かして、**人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、地球環境の持続性に貢献**する責任

自分が携わる**研究の意義と役割を一般に公開**し、かつ積極的にわかりやすく説明

科学者の研究成果が、**自身の意図に反して、破壊的行為に悪用される**という可能性があることを認識し、研究の実施、成果の公表にあたっては、社会に許容される適切な手段と方法を選択することが必要となる

### (3) 公正な研究

科学者同士が**お互いの研究を信頼できる**ことが必要  
**誠実に**研究の立案・計画・申請・実施・報告にあたる

研究成果を公表して**功績の認知を得る一方、論文の内容**  
**について責任を負う**

**特定不正行為: FFP(ねつ造、改ざん、盗用)に加担しない**

研究環境の質的向上・不正行為抑止の**教育啓発に積極的**  
**に取り組む**ことが求められる

人間を被験者として研究に参加させる場合には、**被験者の人格・人権を尊重し、約束を遵守**

動物を扱った研究では、彼らの**苦痛を可能な限り抑え**、彼らの貢献が無駄とならないよう**真摯な態度**でのぞむ

科学者の知的成果などの**業績を正當に評価し**、**名誉や知的財産権を尊重**する

科学者コミュニティ、特に自分の専門領域については、科学者間で行う**相互評価の場**に**積極的に参加**

## (4) 法令の遵守など

研究の実施・研究費の使用等で**法令や関係規則を遵守**

研究・教育・学会活動において、人種、ジェンダー、地位、思想・信条、宗教などにより**個人を差別しない**

個人と組織、あるいは異なる組織間の**利益の衝突**、個人の持つ複数の使命の間での衝突に注意を払う



## (5) 社会の中で科学者が果たす役割

政策立案・決定者に対して政策形成に有効な**科学的助言**  
**を行う**ことも科学者の使命。その際、科学者間の合意に基づいた助言ができるよう努力する一方、意見の相違が存在するときはこれを解り易く説明する必要

科学者コミュニティの助言とは異なる政策決定が為された場合、必要に応じて**政策立案・決定者に社会への説明を求め**る